

研究機関名：東北大学

受付番号： 2013-1-356
研究課題名 てんかんモニタリングユニットにおける転倒・転落の危険因子
研究期間 西暦 2013年 11月（倫理委員会承認後）～ 2016年 3月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ビデオ脳波記録・診療録）
上記材料の採取期間 西暦 2010年 9月～2013年 10月
意義、目的 本研究の目的は、てんかんモニタリングユニットに入院中のてんかん患者にみられる転倒・転落の実態を明らかにし、各種臨床パラメータとの関連を調べることです。ビデオ脳波モニタリング中は抗てんかん薬を減量・中止する場合も多く、転倒・転落事故を起こす可能性が高くなりますが、その危険因子の検討はまだ十分なされていません。本研究の結果がてんかん患者における転倒・転落の原因・病態解明につながるると共に、入院中の事故防止に有用な情報が得られると期待されます。
方法 上記期間に当科で記録された診療録と長時間ビデオ脳波モニタリングのデータを抽出し解析します。入院中に転倒・転落がみられた患者の発作時ビデオ脳波を詳細に観察・判読し直すと共に、各種臨床パラメータ（年齢・性別、発症年齢・罹病期間、発作による転倒および外傷歴、精神発達遅滞の有無、神経脱落症状の有無、てんかん発作型・発作頻度、てんかん症候群・国際分類、脳画像検査・神経心理検査の結果）を診療録から抽出し、転倒・転落のみられなかった患者と比較検討します。ビデオ脳波データは診療録との対応が必要なため、すべて連結可能匿名化した上で扱い、対応表は研究代表者により厳重に保管されます。
問い合わせ・苦情等の窓口 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1 東北大学大学院医学系研究科てんかん学分野 電話: 022-717-7343 担当者: 神 一敬